

## 32 高次脳機能障害を有する外来患者とその家族に対する心理教育的支援

病院 医療相談開発部心理 乗越奈保子・四ノ宮美恵子・土屋和子・色井香織・尾崎聡子  
田中大介・富岡純子 研究所 障害福祉研究部 嶋野麻里子

### 1. はじめに

高次脳機能障害を有する患者の退院後の在宅生活において、家族は一つ一つの行動の促しや安全確認などの対応を必要とされる上に、高次脳機能障害特有の症状の不可解さ、対応の難しさ、発症後の性格や役割の変化へのとまどいなど、様々な不安や葛藤を抱えている場合が多い。その家族の不安や葛藤は患者自身の混乱を引き起こし、生活にも少なからず影響を与える。そこで、当院心理では退院後在宅生活を送る外来患者とその家族の両者に対して心理教育的支援を行い、患者とその家族の日常生活活動の自立と安定を図っている。本稿では、実施している心理教育的支援の中からメモートの活用指導と家族の心理面接について、実践とその成果について報告したい。

### 2. 心理教育的支援の実際

①本人・家族同席によるメモート活用指導 : メモートは記憶障害患者に対する補償手段として広く用いられているが、当院心理ではメモートの活用指導により、患者とその家族の日常生活の枠組みを作る必要性の学習理解、その実践を目指して指導している。活用指導により患者には規則正しい生活リズムが確立し、自発的な行動が増え、記憶の補償手段が定着する。職員の働きかけや日々の活用を通して患者自身の障害認識も促進され、また患者によってはその日の体調や気分を記入することでセルフモニタリングができ心理的安定が得られる。家族は、指導場面に同席することで患者の障害を理解し、職員の患者への関わり方から必要な関わりや適切な対処方法を学習する。職員は家族に、生活の枠組み作りにおける家族の役割を認識させるよう働きかけ、メモートの活用が定着し生活の枠組みが作られることにより家族も心理的安定が得られる。

②家族への心理面接 : 日常生活における問題把握や家族の心理的安定のためには、患者と家族同席の心理教育的支援だけでは不十分であり、家族に対して個別で行う心理面接が重要である。家族は家庭内での生活の様子や日々起きている問題について話す。職員は家族が話す生活のエピソードや問題について、高次脳機能障害としての側面、心理的側面等から説明や助言を行う。このような心理面接により家族は障害理解が促進され、実際場面に即した対処方法や環境調整の仕方を検討することができる。また家族は話す場をもつことで日々直面している問題が整理されるとともに、孤立感も軽減され、心理的安定につながる。さらに、面接を通して自分自身や患者との関係性について新たな気づきを得ることができる。

### 3. 今後の課題

患者の在宅生活への適応が進むことにより家族の心理的安定が得られ、家族が心理的に安定した状態で接することにより患者も安心して生活を送ることができる。患者、家族の変化が相互に影響する在宅生活では、患者と家族双方の心理教育的支援を行うことが望ましい。今後は家族への早期介入も含め入院時から在宅生活まで一貫して行えるよう、他部門との協力のもとにチームアプローチとしての心理教育的支援を位置づけていくことが重要となる。